

歯ブラシ・ブラッシングって気持ちいい~♪

これなら誰でもできる♪

歯ブラシ・ブラッシング

「猫に歯みがきなんて、無理!」と思いませんか?

実は、村田先生流の“歯ブラシ・ブラッシング”ならできるんです。難しいやり方は一切なし。愛猫のきもちいい顔を見られるから、楽しみながら続けられます。

ゴロンしているときに
歯ブラシでこちょこちょ

きもちよくなってウトウ
歯ブラシが大好きに



★歯ブラシ・ブラッシングの前に…

2、3歳以上の猫は、まず動物病院で口内の検診を。歯周病などがあれば治療し、スケーリング(歯石取り)もおすすです。口腔内疾患があると、口のまわりを触ると痛がります。一度痛い思いをすると歯ブラシを嫌いになりますから、まずはお口を健康な状態にしてあげましょう。

3 歯ブラシでみがく。

毎日、少しずつがコツ。



歯ブラシ・ブラッシングでリラックスしているとき、そっと唇をめくって歯ブラシを当てます。最初はそこで終わり。慣れたら少しだけ長く、ササッと歯ブラシを当てる。毎日、ほんの少しずつみがける範囲が広がればいいと考えて、慣れてからも一日で全部の歯をみがこうと思わないでください。

2 口のまわりを触ろう。

無理強いないことが大事。



歯ブラシで顔まわりをブラッシングしながら、反対側の手で口のまわりにそっと触れてみます。最初はここまで。慣れたらもう少し長く触れられたら成功。少しずつ少しずつ唇をめくる練習をします。

1 顔まわりや体をブラッシング。

目的は「歯ブラシ大好き!」にすること。



機嫌よくゴロンしているときに、歯ブラシで顔まわりや体をブラッシングしましょう。「歯ブラシって気持ちいい」と思わせれば成功です。



ブラッシングが気持ちいいのは、歯ブラシの感触が猫の舌と同じだから。

★おやつが好きな子なら…
おやつをあげながらでもOK。猫は虫歯になりにくいので、歯みがき後のごほうびにおやつをあげても大丈夫です。

先生の愛猫ねこちゃん(MIX、2歳)が撮影協力!
いつもはおうちで寝ながらブラッシングするのですが、歯ブラシが大好きなので起きていても嫌がりませんでした。

ブラッシング時の注意 | 寝ている子が起きたり、顔をそむけたりすれば、すぐに止めましょう。猫に深追い禁物です。

こんな症状は、すぐに動物病院へ。

- ▶ **歯周病**
症状 歯ぐきが赤く腫れる、出血する、口臭
歯垢中の細菌によって、歯ぐきに炎症が起きた状態は歯肉炎。これが悪化し、歯を支える歯周組織までもが細菌によって侵された状態を歯周炎と呼び、これらをあわせて歯周病と言います。2歳を過ぎて歯石の付着が増えると発生し、8割以上の猫がかかっていると言われます。お口を清潔に保って予防しましょう。
- ▶ **歯頸部吸収病巣(FORL)**
症状 硬い物を噛むと痛がる、食欲不振
歯を壊す破歯細胞が歯を溶かす病気。原因不明ですが、半数近くの猫がかかります。歯肉との境目や歯肉の中の歯が溶けることが多く、強い痛みがあります。お口のチェックを習慣づけ、早期発見してあげましょう。
- ▶ **口内炎**
症状 口内の炎症、よだれが出る、食欲不振、口臭
口腔粘膜、舌、歯肉など口内全体に発生する炎症。原因はさまざま。口内外傷、歯周病、腫瘍、ウイルス感染、栄養障害(ビタミン欠乏など)でみられ、猫白血病ウイルス(FeLV)感染症、猫免疫不全ウイルス(FIV)感染症などでも発症します。

Q 歯みがきは毎日、必要?

A. 毎日、歯みがきする気持ちでいてほしい。

人間は2、3日に1度のことは継続しにくいので習慣化するためにも、毎日歯みがきすることが理想です。歯みがきの途中で嫌がったら深追いしないことが鉄則ですから、一日で完璧にみがけませぬ。「今日はここまで、明日はここから」と小分けにして、短時間でも毎日みがきましょう。

Q 5、6歳になっても歯みがきできる?

A. 根気が要りますが、できます。

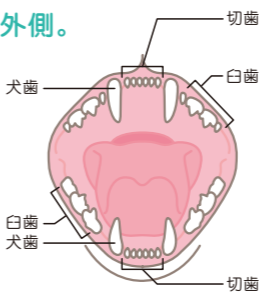
子猫のときから歯ブラシでみがく方が早く慣れますが、成猫になってからでもできます。根気強く、少しずつ慣らしてあげてください。うちも10歳から歯ブラシに慣らし始めた子猫がいますが、今ではちゃんと歯ブラシでみがいていますよ。

村田先生に聞きました! 歯みがきQ&A

Q 歯垢はどこにつきやすいですか?

A. 汚れやすいのは外側。

内側はそれほど汚れないので、大きな口を開けさせてみがく必要はありません。基本的に犬歯や臼歯の外側をみがきます。汚れやすい所は噛み方で個体差がありますので、動物病院で歯垢がつきやすい所を教えてください。



慣れたら、奥の臼歯もみがけるようになります。

デンタルケアをしている猫は、高齢になっても元気です。

23歳になると8割ぐらいの猫が、口腔内疾患を持っていると言われ

特に歯周病が多いですね。歯を磨かなければ、歯周病になるのは当然です。歯垢の中には多数の細菌があり、炎症が起これば、血流を介してあちこちの臓器に運ばれます。髄膜炎や関節炎なども関係があるとか。口の中がボロボロだと、体のどこかに異常が起きていても不思議ではありません。

口の中を見ることが出来ますか?

口の中を見るなんてできない!という飼い主さんが多く、歯周病が悪化してから来院される残念なケースもあります。そこで、楽しみながらできる歯ブラシ・ブラッシングを考えました。何歳でも、誰にでもできます。愛猫とふれあう時間にしてください。



お話・監修
村田 香織先生

もみの木動物病院(神戸市)・獣医師。同病院のしつけ教室でパピークラス、問題行動を持つ犬猫のカウンセリングも担当。株式会社イン・クローバー・代表取締役。おうちでは猫4匹、犬3匹に愛される素敵な飼い主さん。